

アロマオイルを使用したフットマッサージの効果の検証

○中村 智之¹、小山 令江¹、及川 智美¹、北條 加奈¹、栗村 由紀子¹、
川熊 のぶい¹、長嶺 義秀²、藤原 悟³

¹一般財団法人 広南会 広南病院・東北療護センター 看護部

²広南病院 東北療護センター 診療部

³広南病院 脳神経外科

【目的】当センターの入院患者の多くは長期臥床等により下肢に冷感が認められる。精油を用いたマッサージは血液循環促進等の効果が期待できると考え、足浴・精油によるフットマッサージ（以下AM）・キャリアオイルのみのフットマッサージ（以下OM）を施行し、比較検討したので報告する。

【方法】（1）対象：入院中の遷延性意識障害者5名：男性2名、女性3名、平均年齢50歳。足浴・AM（サイプレス、ラベンダー）・OMを各々実施。実施前から実施後120分まで経時的に皮膚表面温度（以下皮膚温）等を測定し、多重比較検定をした。（2）対象患者は感情表現・意思表示ができないため、被験者の「温かい」という主観的・感覚的評価を健常者5名：男性4名、女性1名、平均年齢27歳で足浴・AMを実施し、経時的に皮膚温とVAS（視覚的アナログ尺度）を用いて評価した。

【結果】（1）足浴：患者・健常者（以下両者）では足背および下腿の皮膚温が上昇。（2）AM：両者とも足背では軽度上昇後、緩やかに下降。下腿は患者ではほとんど上昇しなかったが健常者では直後に一時下降しその後上昇。（3）OM：患者では直後に低下し、その後著明に上昇。（4）両者の皮膚温の変化はほぼ同じ経過を辿ったが、VAS評価ではAM実施後、時間経過と共に感覚的に下腿が温かくなるという結果となった。

【考察】今回AM後に皮膚温の有意な上昇が認められなかった要因として、精油成分が揮発した事が関係したのではないかと推察された。また、健常者のVAS評価から深部温の上昇が関連していると考えられるため、今後は深部温の評価も視野に入れた研究を行いAMの持つ効果を最大限に引き出し、いけるよう検討したい。